原著論文

表現形態の融合を目指した授業「領域表現」の可能性を探る：複数教員による遠隔授業における試み

Exploring the Possibility of "Area Expression" for the Fusion of Expression Forms : Attempts at Distance Learning with Multiple Teachers

川口　潤子　（白百合女子大学）・土橋　久美子　（白百合女子大学）
Kawaguchi Junko (Shirayuri University)・Dobashi Kumiko (Shirayuri University)
石沢　順子　（白百合女子大学）・椎橋　げんき　（白百合女子大学）
Ishizawa Junko (Shirayuri University)・Shiihashi Genki (Shirayuri University)

本論は，本学初等教育学科幼児教育コースにおいて 2020 年度より開設された「領域表現」における表現形態が融合された活動の試みを検証し，今後の可能性について検討するものである。この授業は，「身体表現」「言語表現」「音楽表現」「造形表現」を専門とする複数の教員が関わって実施した点が特徴である。企画当初は，集団での活動を予定していたが，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大により，遠隔授業の形式に変更して実施した。授業では，「手洗いを促す替え歌の創作」と「手や体を使った構成」に関する作品提出や，学生間での鑑賞，コメントのやり取りが行われた。学生も教員も慣れない遠隔授業であったが，表現の多様性への気づきを促し，保育実践に結びつく表現方法の可能性を見出すことができた。また，遠隔授業を含む多様な授業方法に対応するための ICT 教育の必要性を感じる機会ともなった。

Ⅰ．はじめに

本論は，本学初等教育学科幼児教育コースにおいて 2020 年度より開設された「領域表現」における表現形態が融合された活動の試みを検証し，今後の可能性について検討するものである（以下，「領域表現」は，科目名を表し，領域「表現」は，5 領域における領域を表すものとする）。

子どもたちは，生活の中で，「身体表現」「言語表現」「音楽表現」「造形表現」など，様々な表現形態の統合を，ごく自然に行っている。子どもたちは，動きながらいろいろな言葉を発し，絵を描きながら即興的にメロディを口にする。しかし，保育者養成校においては，領域の授業が独立していることから，学生には5領域が，しばしば独立して捉えられる傾向にある。また，形態の異なる様々な表現も，それぞれに用意された専門科目の中で独立して学ぶことになりがちだ。

幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラム「領域に関する専門的事項」では，授業担当者の専門性を生かし，身体表現，造形表現，音楽表現等の指導法に関する学問的基盤を踏まえた上で，「幼児の多様な表現の姿及び表現と発達との関係について具体例を示して説明する。」と述べられている。また，＜授業モデル＞では，「様々な表現を体験することを通し，表現の多様性について説明する。」と記されている。

こういった現状を踏まえて，本来あるべき領域理解を促す目的で 2020 年度に新しく開設されたのが，この「領域表現」の授業である。このような複数科目間連携や，他領域の複数教員による授業の取り組みについては，他大学でも行われている例がある。齋藤･木許（2018）は，領域「表現」は，音楽，造形，身体などの表現領域の枠を越え，総合的な表現活動を展開する「保育の実践力」を習得するものであるとして，科目間連携に配慮した授業計画と授業内容を検討している。また，中山（2018）は，「教科科目を融合した表現の学びや，表現を他領域と関連させた授業実践に取り組み，幼児教育を担う専門性豊かな保育者を育てるための授業」について検討をしている。

この授業では，複数教員の多様な専門性を生かし，様々な表現形態の融合について学ぶ場となることを目指して，

8 回の授業（1 単位）として計画された。音楽・造形・身体表現の教員に加え，言語表現の教員が加わったことは，さらに領域理解を深める意図があった。

企画当初は劇遊びやふれあい遊びなど，集団で行う活動を予定していたが，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大により，開講直前にオンデマンド型の遠隔授業での対応を余儀なくされた。また，学内で実施した遠隔授業に関する学生アンケートにおいて，「オンデマンド型授業では，友達と一緒に学べずに孤立感を感じる」という意見が多かったことも踏まえ，可能な限り，創造的な活動や学生間のコミュニケーションが取り入れられるよう工夫し，学生たちが保育の中で実際に活用できる内容となるよう計画を練り直して実施した。

Ⅱ．方法

まず，音楽表現と言語表現の教員が行った前半４回の授業と，身体表現と造形表現の教員が行った後半 4 回の授業内容を表1に示す。そして，各課題に対する学生の提出作品やコメントから，その学びを評価し，今後の授業の可能性と課題を考察する。

Ⅲ．授業概要について

授業の概要は，以下の通りである。

＜科 目 名＞「領域表現」

＜期　　間＞ 2020 年 6 月 10 日～ 2020 年 7 月 31 日

＜対　　象＞本学初等教育学科幼児教育コース 2 年生

（水曜５限クラス 31 名＋金曜４限クラス 31 名，計 62 名）

＜授業回数＞各クラス 8 回ずつ

＜担 当 者＞前半：川口潤子（音楽表現）・土橋久美子（言語表現）

後半：石沢順子（身体表現）・椎橋げんき（造形表現）

＜到達目標＞

・領域「表現」のねらい及び内容が理解できる。

・領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器，及び教材の活用法を理解し，保育の構造に活用するイメージをもつことができる。

・積極的に自分のアイディアを生かして，素材を探したり，作品を作ったりできる。

・領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。

＜授業形態＞

今回の授業では，ポートフォリオシステム manaba folio（マナバ・フォリオ）を利用し，オンデマンド型の遠隔授業として実施した。教員は，manaba folio の「コース機能」を用いて，学生に授業資料や課題を配布し，学生から出されたレポートを回収した。また，学生同士の作品公開・コメント記入なども行った。

＜授業内容＞

３つの課題①～③を用意し，表1の通り進めた。学生がこの授業で紹介した活動の意図や目的を理解した上で，保育現場で活用できるように配慮した。

表1.「領域表現」授業内容

	授業課題	内　容	担当
第1回	課題① 「手洗いを促す 替え歌の創作」	授業オリエンテーション 授業内容と課題①の理解・替え歌の鑑賞	川口 土橋
第2回		手洗いの手順に合わせた替え歌を考え，歌詞をデータで提出する。	
第3回		歌詞に合わせた動きをイラストにおこし，手遊びのポイントを考える。	
第4回		各自の作品と感想を Word によるレポートとしてまとめ，データで提出する。	
第5回	課題② 「手形を使った 構成」	課題②の理解 手形を使って構成し，各自の作品と感想を Wordによるレポートとしてまとめ，データで提出する。	石沢 椎橋
第6回		お互いの作品を鑑賞し合い，コメントを提出する。	
第7回	課題③ 「体の形を 使った構成」	課題③の理解 体の形を型取り構成し，各自の作品と感想を Word によるレポートとしてまとめ，データで提出する。	
第8回		お互いの作品を鑑賞し合い，コメントを提出する。	

※この授業における「構成」とは，色や形を組み合わせて作品をつくることを示す。

Ⅳ.各課題の内容

1．課題①「手洗いを促す替え歌の創作」（川口・土橋）

本課題は，「子どもたちの手洗いを促す替え歌を創作し，歌詞に合わせた動きをイラストで，他者にわかるように描く。」というものである。

【第1回】授業内容と課題①の理解・替え歌の鑑賞

初回のため，8回にわたるこの授業の概要を伝えてから，課題①に取り組んだ。まず，「手洗いの役割」と「手洗いの手順」を，厚生労働省のホームページで確認した。次に，「子どもたちが生活の中で生み出したナンセンスな替え歌」の事例，「テレビのコマーシャルで流れる替え歌」の事例などを紹介した。また，YouTube を用いて，「リパブリック讃歌（アメリカ民謡）」から生まれた複数の替え歌や原曲の鑑賞を行った。授業後，学生は，厚生労働省のホームページを参照して，手洗いの基本的な手順をレポートにまとめ提出した。

【第2回】手洗いの手順に合わせた替え歌を考え，歌詞をデータで提出する。

まず，替え歌がなぜ多くの人々によって作られるのかについての理解を深めた後，子どもたちが保育現場で手洗いをしている動画を観てから，手洗いの替え歌の創作に取り組んだ。替え歌の創作では，「だれもが知っている旋律を選ぼう」「手洗いの手順に沿った替え歌にしよう」「実際に手を動かしながら作ろう」「オノマトペを積極的に取り入れよう」などのポイントを伝えた。創作した替え歌には，各自が考えた題名を付け，（〇〇の替え歌で）と記入し，楽譜は用いずに歌詞のみを manaba folio のレポートサイトに提出するよう指示した。

【第3回】歌詞に合わせた動きのイラストをおこし，手遊びのポイントを考える。

第2回に各自で創作した「手洗いの替え歌の歌詞」をノートなどに書き，それに合わせた手や体の動きを考えて，イラストで表現することを行った。

学生によって，知っている手遊びが少ないことや手や体の動きをどのように描くのかわからないことが予想されたため，手遊びの本の中からイラストが描かれたいくつかの手遊びのページを紹介した。紹介した手遊びは，「はをみがきましょう」（作詞・作曲：則武昭彦　編曲：植田光子）「ちゃつぼ」（わらべうた　編曲：植田光子）「のねずみ」（作詞不詳　外国曲　編曲：植田光子）の３曲である。子どもの体と手の動きや子どもの表情は明るく楽しそうな雰囲気を参考にするよう提案した。手や体の動きを描くポイントとして，替え歌の歌詞に触れるはじめての人でも，どのように手を洗うのかがわかることをあげた。第４回までの課題として，手洗いの替え歌の歌詞を各自，もう一度確認し，手洗いの手順の修正や曲の変更が必要な学生は直すよう指導した。

【第４回】各自の作品を Word によるレポートとしてまとめ，データで提出する。

第3回に各自考えた，手洗いの手遊びを Word によるレポートとして提出するための体裁と，イメージしやすくするためのレポート書式参考例（図1）を提示した。参考例のデータは，Word の状態で manaba folio のレポートサイトに添付し，各自がそのデータを用いてレポートを仕上げ，提出できるようにした。学生が提出した Word によるレポートには，音楽表現の教員と言語表現の教員の２名より，それぞれ manaba folio 上でコメントを学生に返した。

「領域表現」　2020 年 7 月 7 日

学籍番号：□□□□　名前：○○○○○

【題名：各自で考える】

（△△△の替え歌で）

◇◇◇◇◇作詞、自分の名前

1. 替え歌の歌詞を記入。

2. 動きのイラストを歌の順番がわかるように添付。
わかる位置に、歌詞と動きのポイントも記入。

イラスト作成：自分の名前

３．手洗いの手遊びを考えてみての感想（頑張ったところなど）を記入。（100 字以上）

【レポート体裁】
・左余白、右余白、上下余白
　各 20 ㎜
・A4 サイズ　1 枚以上。
・字体は 10.5 ～ 11 フォント
・字体は自由。（見やすい字体で）
・イラストの部分に、「イラスト作成：自分の名前」を入れる。

図 1．レポート書式参考例・体裁

２．課題②「手形を使った構成」（石沢・椎橋）

課題②では，身体表現と造形表現の融合の可能性を理解するとともに，「手形を使った構成」の作品づくりと鑑賞を通して，このような活動の利点や保育現場で行う際の留意点などに気付くことをねらいとした。

【第５回】課題②の理解・手形を使って構成し，各自の作品と感想を Word によるレポートとしてまとめ，データで提出する。

まず，身体表現と造形表現が融合した活動の紹介として，「つくったものと体を使って表現する」「体を動かして遊べるものをつくる」「体を動かして遊びながらつくる」「体を使って描く」などがあることを紹介した。作品づくりでは，遠隔授業でも取り組みやすい内容として「体を使って描く」活動の中から「手形を使った構成」を取り上げ，その活用方法として，成長の記録や表現遊びの作品例を提示した。制作の仕方は，各自が家庭にあるもので取り組めるよ

うに，手の形をなぞってから色を塗る方法と絵の具やインクを使ってスタンプのように描く方法の２種類を紹介した。

最後に，表現遊びの実践として，各自が好きなテーマで，手形を使った作品づくりに取り組んだ。レポートの書式は課題①の形式を基に，完成した作品を撮影し，作品のタイトル，工夫したところなどアピールポイント，授業内容と作品づくりでの学びと感想を添えてレポートとして提出した。

【第６回】お互いの作品を鑑賞し合い，コメントを提出する。

第５回の授業で制作した「手形を使った構成」のふりかえりとして教員が課題の意図を改めて確認した。学生が選んだテーマや工夫の方法，学び・感想の例を教員側でまとめたものを紹介した。相互鑑賞では，提出作品を学生間で鑑賞できるように manaba folio の設定をし，他の学生の作品を見たらその学生に対してコメントを書き込めるようにした。相互評価となる他の学生へのコメントを書く際の留意点として，作品や工夫などで，共感したり，素敵だと思ったりした点を書くように伝えた。鑑賞した学生からのコメントに対して，作品をつくった学生がお礼のコメントを書く形で交流を図った。また，各自のレポートは，他の学生からのコメントを読んで感じたことや学んだこと，体を使って描く表現活動の保育への取り入れ方やメリット，留意点についてもまとめる課題とした。

３．課題③「体の形を使った構成」（椎橋・石沢）

授業のねらいである「保育における様々な表現形態の融合による表現の可能性を探る」ということから，課題③では学生が造形性と身体性の親和性を学生が実感できる授業デザインを行った。また，現場における保育・教育のあり方を考えられるように，実際に子どもと活動を行う様子を視聴し，学生自身も同様の作品制作活動を体験した。

【第７回】課題③の理解・体の形を型取り構成し，各自の作品と感想を Word によるレポートとしてまとめ，データで提出する。

制作の手順は（1）体の部位の型を取り，同じ体の部位で型取る場所や角度を変えたり，型取る体の部位を変えたりし，体の型で線構成する，（2）重なった部分，線で区切られている隙間をクレヨン等で好きな色で色分けして塗り，単色（鉛筆）などであれば模様などを変えて描きたしていく，（3）塗り分けや模様以外にもその場で思いついた色や形を落書き的に描くことも可とする，（4）塗ったり描かれていたりしているものでおよそ８割程度画面を埋め尽くす，（5）８割程度埋め尽くしたら学生自身で終わりを決めて制作終了し，作品と制作時に感じたことをレポートとして書き提出する。

図２．幼児と活動を行った参考動画の一部。幼児の手形を取る様子（上図）と完成した作品（下図）

この制作活動を子どもと行っていくイメージが持てるように作品参考動画を示した。参考動画を示した場合の危惧として，学生の発想や思考を妨げることが考えられるが，制作手順のように体の型取りや重ねる構成を行えば，体の大きさや重ね方が違ってくるため，それぞれオリジナリティーを持った作品となる。また，色を塗っていく工程も重なる形の線を境界とした隙間を塗っていくため，色の構成も見本と同じようにはできず，必ずオリジナル作品となる。また，参考動画は幼児と大人が活動しているため（図２），使う体も大人だけで行うものとは違う構成になっている。

【第８回】お互いの作品を鑑賞し合い，コメントを提出する。

第７回のふりかえりとして，何か具体的なものを描かなくても，体の部分を使って描くきっかけをつかめることや，子どもと一緒に描きながら体について興味を持つきっかけづくりができるなどの意図を伝えた。また，提出作品は，学生間で鑑賞したうえでコメントできるように manaba folio の設定をし，第６回と同様に相互鑑賞と相互評価を行った。他の学生の作品を鑑賞することで，鑑賞作品を制作した学生の思いを受け止め，自分ごととして考えてみる

きっかけとした。コメントを書き終えたら，学生自身の作品についても課題に取り組む前と，鑑賞後の感想を書き，manaba folio に提出した。

Ⅴ．結果と考察

１．前半「手洗いを促す替え歌の創作」（川口・土橋）

音楽づくりの経験が少ない学生も取り組みやすく，替え歌の良さが生かされた活動となった。すべての学生がオノマトペを積極的に取り入れた。また，学生のほとんどが，手洗いの手順をうまく入れ込んだ替え歌を創作することができた。第２回に提出された替え歌の例（図３・４）を挙げる。

手洗いゴシゴシ　　○○○○
（どんぐりころころの替え歌で）

さいしょはお水で手をぬらし
つーぎはせっけん手にとって
あわ立てブクブク　ブークブク
それではいっしょに洗いましょう

まーずは手の甲モーミモミ
ゆーびのあいだもモーミモミ
つーぎは親指クールクル
だんだん汚れがとれてきたー

そしたら手のひらゴーシゴシ
ゆーびのさーきもゴーシゴシ
手首もクルクルわすれずに
さいごはお水で流しましょう

図 3.　手洗いの替え歌　作品例 1

みんなで手を洗おう　　□□□□
（森のくまさんの替え歌で）

手のひら　合わせて
ゴシゴシ　ブクブク
よくよく　あーわーだーてーて～
ゴシゴシ　ブーークーブーク～

手の甲　モミモミ
指のあいだ　モミモミ
モミモミ　モーミーモーミッミ～
モミモミ　モーミーモーミッミ～

そしたら　親指
わすれずに　クルクル
クルクル　クールークールーと～
クルクル　クールークールーと～

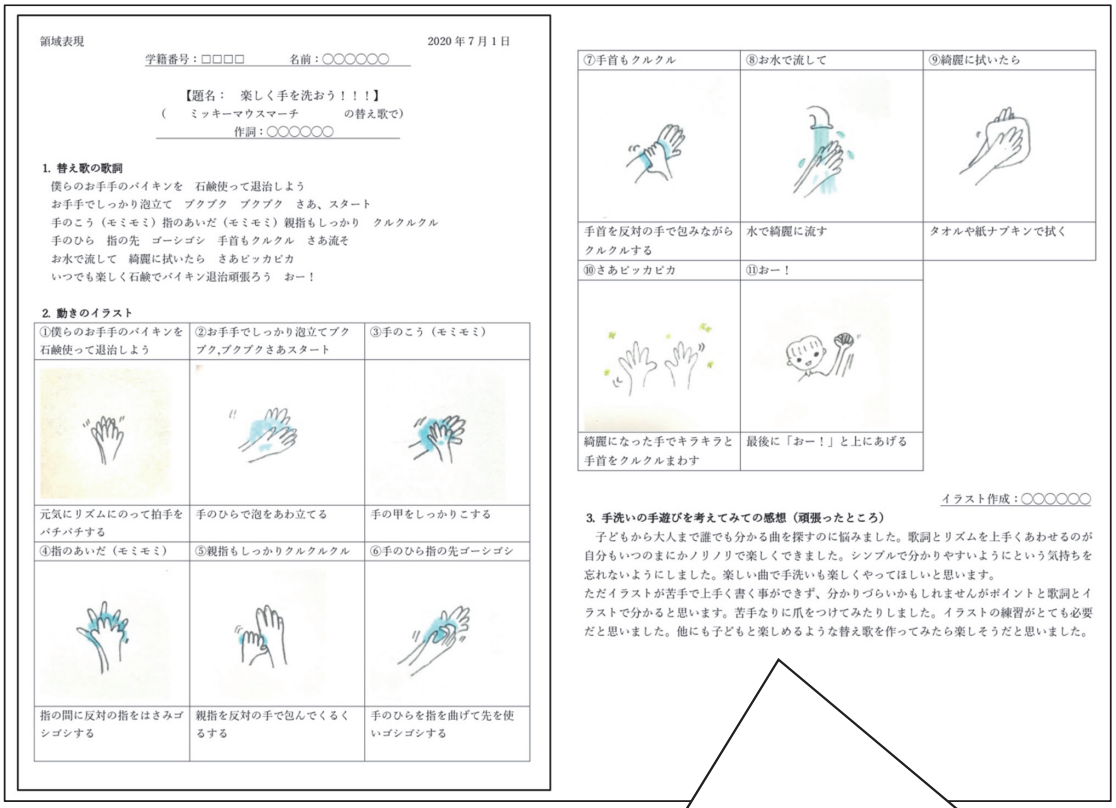
手のひら　ゆびさき
つけーて　ゴシゴシ
手首も　わーすーれーずーに～
クルクル　クーールークールー

あらみんな　あわ立った
お水で　ながしましょう
ジャブジャブ　ジャーブージャーブッブ～
ジャブジャブ　ジャーブージャーブッブ～

図 4.　手洗いの替え歌　作品例 2

画像データ（イラスト）の貼り付けを含む Word によるレポート作成は，今後の学生自身のレポート作成において，十分に役立つものになったと感じている。今回の課題に関して，手洗いを子どもたちと楽しむことが出来るよう具体的に替え歌を考えることの難しさを感じたという感想が見られたが，手洗いの替え歌は今後の実習で生かすことが出来るのではないかという感想を挙げている学生も多く見られ，学生自身の実習への期待と意欲が高まったように感じた。手洗いの手順の工程が７種類あったことから替え歌が長くなりがちになるという点については，課題の難しさを感じた。

以下，第４回に提出された学生のレポート（図５）を紹介する。



領域表現　　2020 年 7 月 1 日

学籍番号：□□□□　　名前：○○○○○○

【題名：　楽しく手を洗おう！！！】
（　ミッキーマウスマーチ　　の替え歌で）
作詞：○○○○○○

1. 替え歌の歌詞

僕らのお手手のバイキンを　石鹸使って退治しよう
お手手でしっかり泡立て　ブクブク　ブクブク　さあ、スタート
手のこう（モミモミ）指のあいだ（モミモミ）親指もしっかり　クルクルクル
手のひら　指の先　ゴーシゴシ　手首もクルクル　さあ流そ
お水で流して　綺麗に拭いたら　さあピッカピカ
いつでも楽しく石鹸でバイキン退治頑張ろう　おー！

2. 動きのイラスト

①僕らのお手手のバイキンを石鹸使って退治しよう	②お手手でしっかり泡立てブクブク,ブクブクさあスタート	③手のこう（モミモミ）
元気にリズムにのって拍手をパチパチする	手のひらで泡をあわ立てる	手の甲をしっかりこする
④指のあいだ（モミモミ）	⑤親指もしっかりクルクルクル	⑥手のひら指の先ゴーシゴシ
指の間に反対の指をはさみゴシゴシする	親指を反対の手で包んでくるくるする	手のひらを指を曲げて先を使いゴシゴシする

⑦手首もクルクル	⑧お水で流して	⑨綺麗に拭いたら
手首を反対の手で包みながらクルクルする	水で綺麗に流す	タオルや紙ナプキンで拭く
⑩さあピッカピカ	⑪おー！	
綺麗になった手でキラキラと手首をクルクルまわす	最後に「おー！」と上にあげる	

イラスト作成：○○○○○○

3. 手洗いの手遊びを考えてみての感想（頑張ったところ）

子どもから大人まで誰でも分かる曲を探すのに悩みました。歌詞とリズムを上手くあわせるのが自分もいつのまにかノリノリで楽しくできました。シンプルで分かりやすいようにという気持ちを忘れないようにしました。楽しい曲で手洗いも楽しくやってほしいと思います。
ただイラストが苦手で上手く書く事ができず、分かりづらいかもしれませんがポイントと歌詞とイラストで分かると思います。苦手なりに爪をつけてみたりしました。イラストの練習がとても必要だと思いました。他にも子どもと楽しめるような替え歌を作ってみたら楽しそうだと思いました。

3. 手洗いの手遊びを考えてみての感想（頑張ったところ）

子どもから大人まで誰でも分かる曲を探すのに悩みました。歌詞とリズムを上手くあわせるのが自分もいつのまにかノリノリで楽しくできました。シンプルで分かりやすいようにという気持ちを忘れないようにしました。楽しい曲で手洗いも楽しくやってほしいと思います。ただイラストが苦手で上手く書く事ができず、分かりづらいかもしれませんがポイントと歌詞とイラストで分かると思います。苦手なりに爪をつけてみたりしました。イラストの練習がとても必要だと思いました。他にも子どもと楽しめるような替え歌を作ってみたら楽しそうだと思いました。

図 5.　提出された学生のレポート例

替え歌の創作が，今回の活動で留まることなく今後も積極的に活用され，保育者自身の創作活動や子どもたちとの創作活動につながるよう，前向きな言葉がけを行った。

保育現場では子どもが主体的に活動に取り組むことができるよう，保育者は日々子どもへのアプローチを模索している。今回の替え歌の創作では，音楽表現と言語表現との融合が実習での保育実践に生かせる可能性を感じる事ができた。レポートの感想でも実習へ生かしたいという内容が多く，学生の実習に対しての意欲に影響があったと感じている。音楽表現，言語表現を別々に捉えるのではなく，相互に関連し合っているものと捉え，活動を作り上げていくという学生自身の保育に対しての意識向上に効果があったと感じる。

2．後半「手形を使った構成」「体の形を使った構成」（石沢・椎橋）

1）手形を使った構成

学生の作品のテーマは, 動物, 植物, 食べ物, 自然, 人など多岐にわたっており, 中にはストーリー性のあるものもあった。また，作品の工夫としては，手のひらだけでなく指なども使う，複数の手形を組み合わせる，手形と背景との色や柄の調整をする，型をとったものを切り貼りする，手形を使ったことをあえて連想させない，一つの手形に多色を使用するなど様々な方法が挙げられていた。以下に，作品の例を紹介する (図 6 ～図 11)。

図 6.　スイカと太陽
（同じ形で異なるものを描く）

図 7.　ニワトリのお散歩
（草の部分に指の形を使用）

図 8.　大きな木
（スタンプと切り貼りの併用）

図 9.　ヒマワリ
（複数の手形の組み合わせ）

図 10.　この世に一つしかない蝶
（あえて手形を連想させない）

図 11.　熱帯魚
（一つの手形に多色を使用）

作品づくりを通した学生の学び，感想からは，「子どもの頃の経験を思い出して楽しめた」「絵を描くのが苦手でも楽しめそう」「自分の手形を使うことで愛着が持てる」「みんなで取り組むと達成感や喜びを共有できそう」といった肯定的な意見が多かった。また，「手を使って形を考えるのが難しく，自分が固定概念に縛られていると感じた」という感想や「一人では手の形をなぞるのが難しかったため，仲間と一緒に行うと良さそう」という課題点に関する意見もあった。

作品鑑賞と相互評価では，「自分では想像もできなかった作品を見ることで，様々な形の活用方法や配色のこだわりなどとても刺激になった」「同じ題材でも手形を取る方法や色合い，周りの装飾，アプローチの仕方の違いによって全く異なる作品になっていたことに感動した」というように他の学生の作品から発想や工夫の方法に広がりを感じている学生が多かった。また，「一緒に活動できなくても，相手の作品を鑑賞することで自分では気づくことのできなかったことを発見したり，参考になる点を見つけて学ぶことができる」というように遠隔授業ならではの気づきもあった。相互評価については「工夫した点に触れてコメントしてくれる方が多く嬉しかった。子どもたちの良い所をたくさん褒める保育者になりたいと思った」など，肯定的なコメントにより，喜びややりがいを感じたという意見が複数あった。

体を使って描く表現活動については，「自分の体が活動のメインとなるため，その子どもにしか作れない世界で一つの作品がつくれる」「楽しみながら子どもの成長を記録できる」「手につく絵の具の感覚や鉛筆でなぞる感覚などいろいろな感覚を楽しむことができる」などのメリットが主に挙げられていた。また，「今回のように手形などを中心にして描く方法と絵を描く際の表現方法の一つとして取り入れることができるのではないか」「汚れても良い服装や環境にしておく」など実際の活動場面での工夫点や留意点を挙げている学生もいた。

２）体を使った構成

作品に使用した体は足や手，顔などもあり多様であった。また，作品に使用する色についても，思考を巡らせ，色を選択する様子を感じ取ることができた。

以下に作品の写真（図 12 ～図 15）と評価につながる作品の視点を提示した。a は制作に使用した体の部位で，b は作品から主に見受けられる評価に繋がる造形表現の手法である。

a
左手、右足、鼻

b
多色塗り、
色分けの工夫、
具現化したイメージ

図 12.　体を使った作品例 1

a
左手、右足、
左足、左腕、
右ふくらはぎ

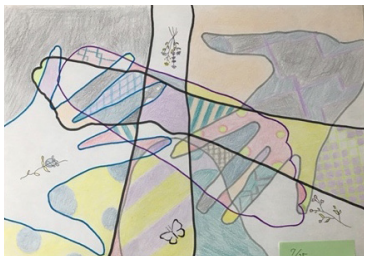
b
多色塗り、
具現化したイメージ

図 13.　体を使った作品例 2

a
手、手の小指、腕、足、
足の指、膝

b
多色塗り、
模様の工夫

図 14.　体を使った作品例 3



a
手、足、腕、膝

b
多色塗り、
色の調和

図 15.　体を使った作品例 4

制作した学生のコメントからは，「子どもと一緒に行う際は，汚れても良い服で，下に新聞紙などを敷いて，汚れないような工夫を考えると良い」など，ねらいの一つである子どもや保育現場をイメージした視点があった。また，「体をなぞったことで，普段思いつかない絵を描くことが出来る」「幼い頃から絵を描くことに苦手意識があったが，楽な気持ちで作ることが出来た」など，「領域表現」の授業の特性である身体性と造形性を組み合わせる利点が見出せた学生もいた。また，「自分の体の一部を使った活動は自分の手や足に少し関心が持て，思っていたよりも指が短いなど感じた」と自分自身の体への気付きもあった。

身体表現として体の形や組み合わせを生かすことで，多くの学生が，造形表現の描くイメージの幅の広がりを感じることができた。学生のコメントには，体を動かしながら行うことで緊張がほぐれ，体の形や大きさに改めて気付くなど，いろいろな発見を楽しむことができたこと，体の型を取ることを最初に行うため，苦手意識を持たずに描くことができたこと，その結果，普段思いつかない発想のヒントにも繋がったこと，などが記されていた。このことからも授業の効果として，身体表現と造形表現の融合から双方の新たな表現の気付きや視点が確認でき，学生自身が楽しみながら学びに向かうことができたといえる。

Ⅵ. おわりに

本研究は，本学初等教育学科幼児教育コースにおいて 2020 年度より開設された「領域表現」における表現形態が融合された活動の試みを検証し，今後の可能性について検討するものであった。

今年度は，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大により遠隔授業での実施となったが，各教員の専門性を生かしながら，領域「表現」の理解を深め，表現に関する内容を様々な方面から学生に提示できたことは意義があったと感じる。また，保育現場で活用できる内容となるように授業展開を考えたことで，学生自身の実習への期待と意欲を高めることができた。

第 6 回，第 8 回で，提出後にお互いの作品を鑑賞し合ったことは，学生にとって他者の体の使い方や工夫，体の特徴，表現の多様性に気づく機会となった。相互評価においては，お互いに肯定的なコメントをする決まりを設けたことで，それぞれの作品の良さに着目できた。このような肯定的な視点を持って評価する姿勢は，子どもの気持ちに共感することにも繋がるのではないか。作品の鑑賞におけるコメントは，対面授業で直接話すよりも，遠隔授業で，文章で感じたことを書いて相手に伝える方が，細かな点まで伝えられる印象を受けた。また，遠隔授業については，各自が自宅で創作活動を行い，他の学生の影響を受けなかったことで，学生の個性がより発揮されたと感じた。

一方,「どこまでやれば良いか正解がわからず，不安だった」「最初はあまりよく理解できなかったが，やっていくとわかった」などのコメントもあった。オンデマンド型の遠隔授業では，他の学生の活動の様子などを見たり感じたりすることができないため，不安が募り，学生は，作品に対して「正解」を求めてしまう傾向にあるのではないかと感じた。

遠隔授業で身体表現を取り扱う際は，使用できる道具やスペースなども制限されるため，活動内容には工夫が必要である。また，Word によるレポート提出では，作品の画像データの貼り付けに苦戦する学生もおり，今後，遠隔授業を含む多様な授業方法に対応するための ICT 教育の必要性も感じた。

保育者養成校においては，机上の学びと保育実践の往還を充実させていくことが課題である。感染拡大が続く中，学生自身には，保育実践を積むことができない焦りがあったことと推察される。学生も教員も慣れない遠隔授業であったが，保育実践に結びつくような授業展開を進めたことで，表現の多様性への気づきを促し，保育実践に結びつく様々な表現方法の可能性を見出すことに繋げることができたのではないだろうか。

今回は主に資料の提示を中心に授業を進めていった。今後の社会状況にもよるが，次年度は，対面式授業の再開を望みつつ，遠隔授業が継続する場合には Zoom 等によるリアルタイムでの授業展開も検討する必要がある。今後も，学生たちが表現形態の融合と多様性への理解を深め，保育現場で活用できるような授業内容や方法を検討していきたい。

参考文献

1) 市橋佳明・八桁健 (2018) 領域「表現」に関する指導の実践的研究 , 中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究 第 4 巻 , pp.77-87
2) 尾﨑公彦他 (2018) 幼稚園教育要領改訂に伴う保育内容領域「表現」に求められる授業内容に関する考察 －新しい教職課程のモデルカリキュラムとの比較を通して－ , 川崎医療短期大学紀要 38 号 , pp.55-61
3) 齋藤正人・木許隆 (2018) 領域「表現」における科目間連携の一考察 －授業内容の改善を目指して－ 岐阜聖徳学園大学短期大学部 , pp.171-177
4) 竹内貞一 (2017) 子どもの表現活動における身体性とコミュニケーション －音楽および身体表現の特性の視座から－ 東京未来大学研究紀要 Vol.11, pp.131-137
5) 智原江美 (2015-2016) 保育者養成における領域「表現」へのクロスカリキュラム導入に関する検討 , 文部科学省科学研究
6) 中山里美 (2018) 総合的・横断的に領域「表現」を学ぶ授業の取り組み , 富山短期大学紀要 (54), pp.83-94
7) 文部科学省 , 厚生労働省 (2017)『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本』チャイルド本社
8) 武藤隆他 (2017)『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか ～モデルカリキュラムに基づく提案～』, 萌文書林 , p.148

【英文要旨】

This article examines trials within classes taught by multiple faculty members using different forms of expression, including "area expression", which was established at the university in 2020. Further, it examines future possibilities.

This class was planned and divided into eight lessons, aiming to become a "place to learn about the fusion of various forms of expression”. During the class, the submission of works, appreciation among students, and exchange of comments were carried out. Although this lesson was taught remotely, which neither students nor teachers were accustomed to, I encountered various lesson possibilities which led to childcare practice.